

実戦で大太刀を

振るった勇将、

真柄十郎左衛門



織 田・徳川軍と浅井・朝倉軍の死闘を描いた姉川合戦図屏風。そこにはひとときわ長い刀で戦う武将が描かれています。日本一の大太刀使いとして勇名を馳せた武将、真柄十郎左衛門（直隆）です。

真柄十郎左衛門は、天文5（1536）年に生まれ、朝倉義景の客将となり越前味真野真柄（現在の越前市）に居館を構えました。十



真柄十郎左衛門【姉川合戦図屏風】
（福井県立歴史博物館蔵）

郎左衛門は、越前の刀匠、千代鶴国安の作による五尺三寸（約160センチメートル）。刀の長さには諸説あり。もの大太刀「太郎太刀」で戦ったことで知られ、身長約2メートル、体重は200キロ以上だったと伝わっています。

永禄8（1565）年、室町幕府の政変により、將軍足利義輝が殺害されます。義輝の弟、足利義昭は朝倉義景を頼り、一乗谷に移りました。観桜の宴の際にこんなエピソードが残っています。義昭の家来が「越前の真柄は無双の大力で、大太刀使いとしてその名は天下に鳴り響いている」と述べ、十郎左衛門が呼ばれました。十郎左衛門は、二本の大太刀

を受け取ると、軽々と頭上で振り回し、豪傑ぶりを披露。皆は「夜叉神も及ばない」と感嘆したといえます（『朝倉始末記』）。

その後、足利義昭は織田信長とともに上洛。15代將軍となります。朝倉義景は信長の再三の上洛要請を拒否。浅井長政は同盟関係にあった信長を裏切り、元亀元（1570）年6月、浅井・朝倉軍と織田・徳川軍が戦う姉川の合戦に至りました。この戦に、大太刀を実戦で使ったエピソードが残っています。

徳川軍は朝倉軍の側面を攻撃。大将・朝倉景健が危機に瀕しますが、十郎左衛門は大太刀を振り回し奮戦。田んぼを耕したように屍が転がったといえます。その後、本多忠勝がこの進撃を止めに入り、入れ代わって勾坂式部ら4人が攻撃。十郎左衛門は「唯四人で我に向かうは殊勝なり」と応戦。奮戦の末、鎌槍でかけ倒され、最後は「あっぱれなり、いざ鬼真柄の首をとって武士の誉れにせよ」と首を献上して果てたといえます。

この戦いの様子は「姉川合戦図屏風（福井県立歴史博物館蔵）」に描かれています。勾坂式部に大太刀を振りかざす十郎左衛門は第二扇から第三扇に登場し、古今を通じて最も



千代鶴神社

関連史料・ゆかりの地



真柄十郎左衛門が使用したと伝わる「太郎太刀」のひとつ
「太刀 銘 行光」（白山比咩神社蔵）

大きな太刀を実戦で使ったと言われる十郎左衛門を今に伝えていきます。

天下一の大太刀使いとして名を馳せ、最期は姉川に散った真柄十郎左衛門。彼の武勇は、無類の大太刀とともに永遠に語り継がれていくのです。

真柄十郎左衛門の「太郎太刀」を製作したとされる千代鶴国安を祀る神社。千代鶴は、越前鎌の製作技術を発明し、地域の鍛冶屋に伝授したことから、越前打刃物の祖とされています。

【住所】越前市京町2-4（JR 武生駅より徒歩10分）

参考資料等

斎藤楓堂『ふるさと味真野』武生市味真野公民館
『北陸の豪勇、真柄十郎左衛門と大太刀、そしてその一族と産業の関わり』不老区